

# 平成28年度 あきたスマートカレッジ (報告)

## S 特別企画 ～北条常久特別講座～

### S 1～3：北海道・東北 文学のつながり

講師：秋田県生涯学習センター  
シニアコーディネーター  
北条 常久  
会場：秋田県生涯学習センター3階 講堂

【趣旨】北条常久シニアコーディネーターが北海道と北東北にゆかりのある作家を題材に、文学の旅にご招待します。

| 講座記号 | 期 日       | テーマ                   | 参加者数 |
|------|-----------|-----------------------|------|
| S 1  | 9月29日(木)  | 小林多喜二 秋田の農村と小樽        | 113  |
| S 2  | 10月20日(木) | 石川啄木 渋民村から函館、札幌、小樽、釧路 | 119  |
| S 3  | 11月24日(木) | 鶴田知也 北海道の酪農から秋田の農村へ   | 88   |
| 合計   |           |                       | 320名 |

当センターの北条常久シニアコーディネーターが、北海道と北東北に注目して開催した特別講座です。毎回多くの方々に受講していただきました。

ここでは、2回目の『石川啄木』について報告します。



石川啄木は、岩手県出身の作家です。啄木は雑誌『明星』に投稿した詩をきっかけに、17歳にして天才と呼ばれます。19歳で第一詩集『あこがれ』を出版し、好評を博します。その後すぐに結婚し、父の収入がなかったことから、父母妹との同居で新婚生活を始め、20歳で一家の扶養も啄木が負うようになりました。第一詩集『あこがれ』の成功から、1907年(明治40年)1月、函館の文芸結社・苜蓿社(ぼくしゅくしゃ)より原稿の依頼があり、函館在住の松岡落堂らと知り合います。啄木の北海道生活は、その年の5月5日、函館に移り松岡落堂の下に身を寄せたことから始まります。そして、ほぼ1年間、函館、札幌、小樽、釧路と生活の地を変えながら各地で新聞記者として生活を送りました。同時に、その各地で詩作に励み、数多くの詩を残したことは、各地にある歌碑からもわかります。彼にとって北海道は、まさに新天地であり、新聞記者として安定した収入も得られる場所のはずでした。しかし、中央文壇での活躍を夢見ていた彼は、与謝野夫妻や親友金田一京助を頼りに、東京へと旅立ちます。

石川啄木の詩は、一般的な五七五の七五調ではなく、三行詩と呼ばれ、その文体は彼独特のがあります。それにより、天才と呼ばれることになりました。小林多喜二は、石川啄木の詩から優れたものを選び、恋人タキに暗唱できるようにと勧めました。それらの詩が資料として配られたことや、「小林多喜二の詩作は数少ないが、啄木に似たテーマの七五調の詩を創作しており、多喜二に様々な影響を与えたのだろう」という言葉に、受講者は大感激の様子でした。